



天使

発行

天使大学 広報委員会

〒065-0013

札幌市東区北13条東3丁目

TEL 011-741-1051(代)

FAX 011-741-1077

http://www.tenshi.ac.jp



天使大学の 開学にあたり

理事長
松宮 英視

天使女子短期大学から四年制大学への改組転換がめでたくも認められ、天使大学が発足してから、早くも一年を経過しようとしています。四大を目指して準備多忙であった頃のこと、開学直前の状況などは天使女子短大学報「TENSHI」紙上でご存知のことと思います。ここでは、天使大学開学の一頁をスケッチすることとします。

☆ 4月3日(月)に天使大学発足

この日の朝、全教職員が新館6101講義室に集合。宗万事務局長の司会で、開学のための必須事項、すなわち大学のすべての行動の根源となる事項を確認して頂きました。

まず私から、大学の開学を宣言し、この日から天使の一員となられる方もあることから、本学の五十年余の沿革の概略を述べつつ、建学の精神「愛をとおして真理へ」を継承して、有用な人材の育成に力をあわせることを最高目標とすることを唱えたのであります。

また、73人(短大以来の55人と新たに参加された18人)の教職員のお一人おひとりに辞令を交付し、決意を新たに頂きました。その後引き続き第一回の教授会を開催して、大学運営の基本となるいくつかの規程を承認して基盤を整えました。

☆ 4月8日(土)に合同入学式

天使大学看護栄養学部(看護学科88人、栄養学科96人)と、天使女子短期大学専攻科(衛生看護学専攻22人)の合同の入学式がこの日行われ、新入生を迎えた充実感と、学士課程教育を始める緊張感とが入れ交じった日であります。

☆ 5月27日(土)の開学記念式典

開学後2ヶ月近くを経たこの日、札幌グランドホテルに400余名の関連の方々を迎えて開学記念式典及び祝賀会を開催しました。場崎洋司祭の司式による「みことばの祭儀」と五十嵐いおり氏(同窓生)の司会による式典は、天使大学らしい、厳粛で、かつ、温かい集いであったことを、心から喜ばしい思い出とし、関わって下さったすべての方々に深甚の謝意を改めて表すものです。



歩みだした 天使大学

学長
近藤 潤子

天使大学の初年度は順調に進み、いよいよ二年度を迎えることになりました。

2000年度入学者の入学試験から、推薦と一般入試の他にセンター入試が加わりました。それぞれに多数の応募者がありました。熱心に本学を目指し希望に燃えている新入生の入学を楽しみにしています。

管理栄養士学校指定規則の管理栄養士・栄養士養成施設カリキュラム等に大きな変更が予定されており、これを受けてカリキュラムその他に手直しが必要になりますが、臨床実践を重視する方向が示されていることは、本学の教育目的をいっそう強調する点でよろこばしいことと思われまます。

大学となり、在学年数の延長および看護学科の学生定数増に伴い、本年度以降は大幅に学生数が増加していくことになります。また、最近になって調理実習室の置かれている3号館のガス・電気等設備の老朽化が予想以上に進んでいることがわかりました。そのために本年度中に財政的に可能である範囲で緊急性の高い一部の校舎の増築や改修を実施することになります。

短期大学は、2000年度には食物栄養学科の最後の卒業生を送り出します。2001年度には衛生看護学科、そして平成2002年度すなわち2003年3月に専攻科の修了をもって閉学の運びとなります。

大学の準備・開設にひとかたならぬご貢献をいただいた協賛会は天使大学後援会に引き継がれ、曾我文子様(厚生科3回生)が初代会長となり、本学を後援して下さるとのことですが、いっそうのご支援・ご指導を心からお願い申し上げます。

2001年1月31日に、初代校長として本学の創設にあたられたマリア ルイザ川原ユキエ先生(シスター フィロメナ)が逝去され、マリアの宣教者フランシスコ修道会熊本修道院のチャペルで御葬儀が行われました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

新校舎脇に立つ
マリア像

COLUMN マリア像のこと

新校舎西側にマリア像が設置されました。このマリア像はこれまで、短大の前庭で学生の行き帰りを見守っていました。大学が開学となり、創立記念日である12月8日に先立ち、昨年12月6日に祝別式が行われました。

この日は開式直前より風湿じりの大雪が全てを覆い尽くすように降り出し、傘をさしての司式となったルカ神父様が「忘れられない祝別式となりました…」と言。ふと胸に暖かいものがこみあげマリア像を見上げました。

春には花に囲まれる予定。天使に集う全ての人々をいつまでも見守ってくれることでしょう。(N.K.)

“みことばの祭儀”で始めた開学記念式典 喜びに満ちた祝賀会

— 5月27日札幌グランドホテルで開催 —

原 美智子
(栄養学科教授)

式典はカトリック真駒内教会主任司祭である場崎洋氏により「みことばの祭儀」を中心にすすめられた。この日のために組織された学生合唱団による校歌の調べにのせて司祭が入場し、「祈りへの招き」、「使徒書の朗読」、「答唱の歌」、「福音の朗読」、司祭の講話、各学科長・科長の「共同祈願」が行われた。そして、松宮理事長の式辞、カトリック札幌司教区教区長地主敏夫司教、マリアの宣教師フランシスコ修道会より樋口桂子元理事長、道内国公私立大学長懇談会より小樽商科大学山田家正学長、日本カトリック連合会より藤女子大学永



田淑子学長らの心温まる祝詞の後、天使女子短期大学同窓会東貴代会長と天使女子短期大学・天使大学学生会の会武藤聖子会長より寄付金・記念品の贈

呈があり、閉祭の歌「みははマリア」の全員合唱で祈りの内に式典を締めくくった。カトリック大学ならではの式典に参列者400余名は荘厳の中にも大いなる喜びと希望に感動もひとしおであった。

続く祝賀会は五十嵐いおりさん（食物栄養学科34回生）の名司会の下、「花」の合唱で開会、札幌市保健福祉局宮田医務監、北海道医師会飯塚会長、北海道看護協会大田会長、北海道栄養士会古水会長らの祝辞、堀知事のメッセージをはじめ80余りの祝電披露の後、北海道医療大学看護福祉学部中島学部長による祝杯で、合唱団の歌を聞きながらの開宴となった。

川崎医療福祉大学岡田副学長、旧教職員代表の廣瀬アヤ子名誉教授、天使大学後援会曾我文子会長らのスピーチ、近藤学長の謝辞に続き「ハレルヤコーラス」の合唱で開学をともに祝い、閉会した。

(開学記念式典・

祝賀会委員長)



天使大学開学記念公開講座

— 命みつめて —

山本 愛子
(栄養学科教授)

2000年7月17日(月)、札幌グランドホテルにおいて、一般参加の方176名をお迎えし、本学学生、教職員全員が出席して天使大学開学記念公開講座を開催いたしました。

「今、私たちにできること」 葉 祥明氏(画家・詩人)

「ホスピスケアのめざすもの」 山崎 章郎氏(聖ヨハネ総合病院桜町病院ホスピス科部長)

「命を育む愛と食」 Sr.高木 慶子氏(英知大学教授)



講演する山崎章郎氏

「命みつめて」をテーマに、本学の建学の精神である「愛をとおして真理へ」をまさに実践しておられる葉祥明氏、山崎章郎氏、高木慶子氏をお招きし、講

演をいただきました。

葉氏は画家・詩人の立場から自分らしく自由に生きることについて話されました。世界では今、環境問題、災害など憂慮される問題がたいへん多くある中で、まず自分自身を愛し、また、あふれる愛を自分以外の存在や他の国の人々へと広げることが求められていること。そのためにも、自分の内にある優しい心、思いやりの心を素直に表し、小鳥のさえずりに耳を傾けるような日常生活にあるささやかなことを大切にすることを話されました。

山崎氏はホスピスがどのようなケアを提供しようとしているかを具体的に話されました。末期の癌患者さんでホスピスケアを受けられる方は約2%で、ほとんどの方は一般病院で最後を迎え、その多くの場合、慌しい環境の中で時間を過ごし、この世を去っていきます。少しでも快適に、人間らしく人生を終えることをめざすホスピスの存在から、人間が生きることの意味を深く考えるひとときでした。

高木氏は阪神大震災を体験して考えたことを中心に、非常事態下における多くの困難と、それゆえ非常事態において心身のケアとなる食の大切さを具体的に話されました。

会場からは多くの質問があり、終始、講師の先生の講演に熱心に聞き入っていました。(開学記念公開講座委員長)

学 事 暦

4月8日 入学式
4月10日～14日 新入生オリエンテーション、出会いと親睦ゼミ
4月17日 前期講義開始
4月24日 始業ミサ・イースターの集い、学生総会
5月12日 体育大会
5月23日 合唱コンクール
5月27日 開学記念式典
7月8日～9日 北海道地区大学体育大会
7月17日 開学記念公開講座

9月18日 後期講義開始
10月20日～21日 天使祭
11月11日 推薦入学試験、社会人入学試験
12月8日 創立記念日
12月20日 クリスマスの集い、学生総会
1月20日～21日 大学入試センター試験
2月6日・7・16日 一般入学試験
3月15日 卒業ミサ
3月16日 卒業式

有珠でのボランティア活動

百々瀬 いづみ・佐藤 薫
(栄養学科助手)

2000年3月31日の有珠山噴火を受け、本学では災害救援活動として学内にワーキンググループを立ち上げ、保健婦、看護婦、管理栄養士等の専門職種をボランティア登録しました。その結果、被災地の要請を受け、管理栄養士の資格を持つ教員が避難所のある豊浦町へ派遣されました。主な活動は被災者のための献立作成でしたが、約2,400名と食数が多く、衛生上の問題もあり、手作りではなく、調理済み食品を組み合わせる内容となりました。栄養のバランスにはできるだけ配慮しましたが、毎日続くと飽きがかかることや、自分の好み通りに調理して食べるのできない不自由さを身をもって感じました。豊浦町には全国各地から各職種ボランティアが集い、皆笑顔で協力していました。そのような方々と意見交換ができたことも良い経験となりました。

この度の活動を通じ、災害時における危機管理のあり方についていくつかの課題も残りましたが、この貴重な経験を今後の栄養教育の中に活かしていきたいと思います。



被災地へ出発する朝、学長よりお守り(マリア様のメダル)をつけてもらう百々瀬さん

オーストラリア研修の日々

伊藤 麻美
(衛生看護学科2年)

7月23日、私たち6人は海外での看護を学ぶためオーストラリアのアデレードへと旅立ちました。現地で看護婦として働いている先輩の松原さん(衛生看護学科33回生)のもとで、私たちはさまざまな体験をさせていただくことになりました。病院やホスピス、高齢者および小児専門病院の見学、病院実習、手術見学など本当に貴重な体験をし、言葉だけでなく、看護婦の役割、入院期間の違い、病院食に対する考えの違いなどさまざまな点で日本と大きく異なり、驚かされることが多くありました。

こうしたオーストラリアの医療体制を知ることは、私たちにとって新しい発見や多くの学びとなりました。日本との違いを知ることは、私達それぞれの看護観に新しい風をおこし、看護についてさらに考えを深める重要なきっかけを与えてくれたように思います。また、滞在中には松原さんをはじめ、松原さんのご主人のマーチンさん、共に研修をした初代さん、私たちを笑顔で迎えてくれた病院スタッフ、そして患者さん、と本当にたくさんの方との出会いがありました。多くの人々のおかげで、私たちはこの約2週間の研修で多くのことを学び、感じ、得ることができたのだと思います。

最後に、松原さんをはじめとする多くの方々に感謝申し上げますと共に、研修での学びを今後へと生かし、それぞれの夢を実現させるため、精一杯頑張っていきたいと思います。

学校行事におけるカトリック行事の位置づけ

沢 禮子(看護学科教授)

本学は日本におけるカトリック大学一般基準に基づき設立されています。学生便覧には、キリスト教精神に基づく建学の精神『愛をとらして真理へ』が明記され、教育課程、学校行事と課外活動、学生生活指導の中で実践しています。この建学の精神の言葉はイエスキリストのメッセージに基づく人間の生き方を示したものです。ただ単に文章に掲げられているものではなく、学生、教職員、卒業生等を含む教育共同体が、その時代の社会の要求に応じながら、生きた創造の実りとして共に築き上げていくものです。

カトリック行事は学校行事の中でも建学の精神の具現化として人間本来の姿を肌で実感できる場と位置づけ大切にしています。宗教的行事の主なもの、1)ミサ聖祭(始業時、卒業時に行います。キリストによって制定された聖体祭儀です)、2)復活祭(キリストの復活を祝います)、3)クリスマス(神の愛を全人類に広めるため、人となられたキリストの降誕を祝い、愛の実践を学びます)、4)修養会(自分の生き方をふり返り、友人や教員との絆を深めます)等です。

カトリック行事には教職員が共に参加し、親密なかかわりの中で、信頼関係を築き、人間の尊重を学び、豊かな人間性を育むことを目指しています。



娘が入学して

阿部 栄子

歴史と伝統ある天使大学に、娘が入学して早1年になろうとしています。4年制大学に移行した年に入学できたことは、我家の喜びであり、誇りでもあります。

近藤学長が学生に、「他の人と相対した時、初めて自分のことがわかり、相手を大切に、どう理解するか学ぶことができる」と話されているのを聞き、私も自分の子育てを通し似たような思いでおりましたので、娘の大学入学を機に改めて子どもと共に歩んできたこれまでを振り返ると同時に、感慨深いものがあります。私には、天使大学(1年)、高校(2年)、中学(3年、双子)、中学(1年)と5人の子どもがおりますが、5人の子どもの成長に関わる中で私自身を見つめ、また成長してきたように思います。また、地域内で子どもを専門的に

担当する主任児童委員として民生委員活動をする中で、子どもを通して地域や社会を考えると共に、自分の子どもの成長発達をいくらかでも客観的に見つめることに結びついてきたように思います。子育ては自分育てといわれますが、親が子どもを通して自分を見つめ、どう心を広げ、心を強くし、人間として成長していくかが子育てであり、親育ちなのだと考え、地域の活動をすすめています。そしてまた、大学に入学した娘と共に私もまた成長していくことが楽しみです。

21世紀は「心の世紀」「生命の世紀」といわれます。人との関わりの中で自分を見つめ、心豊かな自分を築いてゆける社会となるために大学の果たす役割は大きいことでしょう。

娘の大学生活がゆたかで充実したものであるようにと願いつつ、また同時に娘からの刺激を受けながら、子育てと自分育てをしていきたいと思っています。

(栄養学科1年阿部めぐみさんのお母様)

◆看護学科

看護学科長 菅原 邦子

看護は人間の「生活」と「健康」の関係を解明する実践科学です。看護学科は、社会のニーズに豊かな人間性をもって対応する看護専門職者の育成を「愛をとおして真理へ」を基盤に教育課程を編成しています。その特徴は、1) キリスト教的世界観と人間観に基づく教育：人間存在の多様な価値や人権を尊重できる態度の育成、2) 多様な場で看護専門職者として自律して機能する力を育成する教育、3) 他の専門職者や他の人々と連携・協働する能力の育成、4) 人間愛をもって国際社会に貢献する能力の育成、5) 将来看護学の発展に寄与する人材の育成にあります。

教育課程は、教養教育科目29単位、専門基礎科目29単位、専門科目72単位で構成されています。4年間で130単位以上履修すると保健婦(士)・看護婦(士)の国家試験受験資格が取得できます。これらを保健婦(士)・看護婦(士)の統合科目と行事、さらに臨床現場との連携を図って教育します。また、看護学科は友人や教師との出会いを大切に教育を行っています。

1回生は、看護を提供するために必要な考える力と安全に実践する技術の習得を課題学習や演習を通して学んでいます。さらに、看護が提供されている現場(病院や地域の福祉施設や保健センター、患者会など)を多様な角度から学ぶ体験学習を経験し、看護専門職者としての役割と機能について考え始めています。

開学2年目となる4月に入学してくる学生たちに、天使の先輩たちが培った理念を継承し育んでいきたいと思っています。

◆教養教育科

教養教育科長 後藤 聡

教養教育では、建学の精神に基づいた人間としての普遍的価値観を養い、幅広い教養を身につけさせ、国際化、情報化、少子高齢化などの社会変化に対応できる能力を培います。それにより、両学科の専門教育を支える人間性の陶冶、及び広く社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

科目は次の5領域に区分されており、両学科共通で38科目開講されます。必修科目・選択科目を紹介します。

- 1) 人間と文化：文化的資産を通して人間を理解するための科目群／宗教学 人間学 倫理学 聖書の講読教育と人間 対人関係の心理学 学習と発達心理学 カウンセリングの原理 民族と文化 近現代の日本 ことばの表現 音楽概論 美術概論 教養ゼミナール
- 2) 人間と社会：家庭から地球規模まで、人間を取り巻く社会の構造、仕組み、及び人間とそれらの関わりを理解するための科目群／現代社会と法 現代の経済 社会学概論 生活と福祉 国際医療福祉関係論 環境健康論(看護学科のみ) 現代社会と生活 住生活環境 消費生活 服装と社会 ファッション造形演習
- 3) 科学と情報：専門科目の科学的基礎と情報処理に関する科目群／化学 生物学 統計学 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ(看護学科のみ)
- 4) 外国語：実用性の高い外国語を学習するための科目群／英語Ⅰ・Ⅱ オールイングリッシュⅠ・Ⅱ フランス語
- 5) 健康とスポーツ：健康に対するスポーツの有効性とスポーツを手段として自己の健康管理を考える科目群／生涯スポーツ スポーツプログラム

◆栄養学科

栄養学科長 杉山 佳子

栄養学科の基本目標は、食を通して、人々の生命と健康に関わる専門職の一員として社会に貢献し得る管理栄養士を育成することにあります。

大学として新たに発足した本学科では、この目標のもとに一年目にあたる2000年度は、基礎的課題として何よりも人間理解を第一におきました。そのために、栄養学科の専門基礎科目では生体を知り、そのしくみや働き、機能のメカニズムの理解をめざしています。また食品の成分や栄養的特性、さらには、食にまつわる文化や加工に至るまでを、実際の調理、分析、実験を交えながら学ぶことに主眼をおいています。

またこの他に、教養教育科目として、人間学や倫理学をはじめ、人の心理や社会生活に関わる科目、外国語、情報処理能力の習得のための科目など、栄養士としての専門科目と並立しながら、同時に豊かな人間性の充実を期待し、これを発展させるための科目が用意されています。これらを学生自身が選択し、学習してきました。この一年を振り返り、初年度としてのカリキュラムの構成が十分であったかを、教員・学生共に自己点検し調整の検討が必要と考えています。特にその配列や時間数等が適切であったか、機能性が十分だったか等、個々の科目について検討し、次年度に反映させる取り組みをすすめています。

新しい栄養士法に基づいた教育が本学科で始められましたが、社会が管理栄養士に求めている能力、機能に十分応えられる一年間であったかを振り返りながら、二年目につなげていきたいと思っています。

◆天使女子短期大学
専攻科衛生看護学専攻

専攻科長 白井 英子

専攻科が開設されて今年で36年目を迎えます。その当時の看護職関係者には、保健婦と助産婦の合同教育を1年で実施しようとする厚生省の規則に対して反対する意見が多くありました。保健婦助産婦合同教育課程の学校数が、もっとも多かったのは、昭和48年の20校ですが、その後、暫時減少し、現在(2000年度)は5校になりました。天使短大専攻科は、5校の中でもっとも長い歴史をもつ学校となりました。その専攻科も、大学への改組転換のため、あと2年で閉校を迎えます。本校の専攻科が36年間もの長きにわたり継続できたのは、天使病院をはじめとする実習施設のご尽力によるところが大きいと思います。

保健婦と助産婦の国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムは、学生および教員にとっても大変ハードな闘いの1年間です。最近の学生たちの生活行動パターンは「ゆっくり、一つひとつのことを丁寧に、マイペース」です。専攻科のカリキュラムは、これらの学生の特性を生かすことが難しくなっています。

先輩たちが危惧していたように保健婦助産婦合同教育カリキュラムを再考しなければならない時期にきていると痛感する日々です。

「愛をとおして真理へ」を实践する

各科・各学科の教育

就職活動



五稜郭病院に就職

横堀 恵子
(食物栄養学科2年)

栄養士として活躍できる場は多くありますが、私はその中でも病院栄養士を希望していました。しかし、現在病院内で直営の栄養士として就職することは難しく、その上管理栄養士を求める時代です。ですから、直営の栄養士として病院に就職することは難しいと感じていました。

私が現在内定をいただいている病院はたまたま私の臨床栄養学実習の実習先で、私の希望である直営の栄養士を募集していました。当初、管理栄養士を必要としている病院で私のようなものが内定をもらえるわけがないと思いましたが、少しでも自分と関わりのあるところと思い、受けることにしました。で

すから2週間の実習期間は実習の場であり、常に面接の場であるという気持ちで行いました。

実習内容は、本当にこの病院で働きたいと思えるほど実りあるものでしたので、この病院に就職したいと思う気持ちが一層強くなり、試験まで面接練習や一般試験問題の勉強など自分ができることをしました。試験は満足のいく出来とはいえませんが、なぜ私が内定をいただくことができたのか考えてみると、一日の面接の姿だけではなく、2週間の実際に実習をしている姿をみてもらえたことがよかったのではないかと思います。

最後に、天使女子短期大学に入り、耳だけで聞く授業だけではなく、実際に手や目を使い実験や実習をすることで、授業内容をより理解することができたことはとてもよかったです。また今回就職活動していて、天使女子短期大学を卒業された先輩方が社会でたくさん活躍されているおかげで、受験先でもとても高く評価をしていただけて、本当に天使に入学してよかったと思います。私もこれから働く場では、精一杯勉強し、期待を裏切らないように頑張りたいと思います。

活動する 葦の会

～学生会の動き～

2000年度 葦の会役員

会長	武藤聖子(食栄2年)
副会長	竹内あゆみ(食栄2年) 本田貴子(衛看2年)
書記	山口春奈(栄1年) 汲田麻奈美(看1年)
会計	稲葉久子(栄1年) 高見桃子(看1年)
監査	栗根絵里(衛看2年)

実行委員長

体育大会実行委員長	千葉友美(食栄2年)
天使祭実行委員長	山口葵(看1年)

各委員長

萌芽編集委員長	太田朱実(衛看2年)
選挙管理委員長	松田智子(栄1年)

クラブ・サークル

()内は2000年5月現在の人数

- バドミントン部(29)
- テニス部(14) ●水泳部(36)
- LPT&D(レッツプレイテーブルテニス)(11)
- 箏曲部(4) ●茶道部(10)
- 菓子研究部(34) ●ひよこクラブ(11)
- PEC(Philippines Exposure Club)部(10)
- ニュートリションスタディクラブ(14)
- ラ・コミーダ(23)
- バレエサークル ラ・シルフィード(8)



フィリピンにて栄養指導をおこなう、西村さんと横山さん

天使祭顛末記

学生課長 内山昌子

葦の会(学生会)が企画・運営する行事の一つとして、10月20・21日に天使祭があった。

本年度は、大学初年度ではあったが、短大生が中心となり、ほぼ従来どおりに推移した。関わった学生はそれなりの充実感と達成感を味わった。

年一回のお祭り騒ぎもいいか、と思う一方で、学生生活の成果を発表する場でありたいと願う学生課は、今年も期待と不安と口出しで、気がついたら当日を迎えていた。

恒例のステンドセロファンが出来ば

えに感心し、学外実習の展示物に見入る。今年から始めたアームレスリングを応援し、学生お手製の美味?な品々を胃袋に収め、見事に踊り歌うリオハの曲に大笑いし、オープンキャンパスに参加の高校生数に満足する。初日、天使祭PRのために引き受けたNHK総合テレビの生中継番組では、オープニングを同窓会寄贈のステンドグラスを背景に、修道女・学生・教職員が心を一つに聖歌を歌い、その団結ぶりに番組担当者を驚かせた。高視聴率だったこのことで、大学のPRにもなった。

学生サークル紹介

ラ・コミーダ

西村 清子(食物栄養学科2年)

「ラ・コミーダ」とはスペイン語で「食べ物」の意味です。昨年4月に出来たばかりですが、みんなに「ラコミ」と呼ばれていて学内ではかなり有名なクラブです。

私は昨年3月に約2週間、同級生の横山香織さんと「地球ボランティア協会」という団体が主催するボランティア研修に参加し、フィリピンに行ってきました。ボランティアの内容は、農村の女性を対象にした栄養指導(これは栄養学科の学生が実施。それぞれ専門分野を受け持ちます)やフィリピンの大学生と一緒に小学校のペンキ塗りや簡易トイレ造り等でした。参加者は約20名で、まず2月に神戸で宿泊ミーティングに参加し、いろいろ話し合いをしてボランティアの内容を決定しました。現地では失敗やとまどいもいっぱいありましたが、全体的にはすばらしい体験でした。フィリピンではずっとフィリピン料理を食べていましたが、日本人の好みに合う美味しいものでした。辛いものばかりと思っていたので意外でした。それで、他の国ではどんなものを食べているのだろうと興味を持ち、2年生になってから仲間に声をかけてクラブを立ち上げました。1年生の部員も集まり、これまでにドイツ、タイ、西アフリカ、メキシコ(もちろんフィリピンも)等について、その国に行ったことのある方呼んで話を聞いたり、自分たちで英語のレシピを訳したりして活動してきました。天使祭では模擬店でフィリピン料理のメニュー(フィリピンの肉じゃが)とハロハロ(フィリピンのフルーツパフェ)とタイカレーを作り大好評でした。実習や実験、レポート提出に追われ忙しい毎日でしたが、ボランティアに行けたこと、新しいクラブを作れたことは学生時代の大きな思い出です。

●●●新入生のメッセージ●●●



高橋 麻里 (栄養学科1年)

私は2000年4月に天使大学看護栄養学部栄養学科に入学しました。

私が管理栄養士になりたいと思ったのは中学生の時に、病院で活躍している管理栄養士をテレビ番組で見たことがきっかけでした。

その時から臨床栄養士として病院で働きたいと思っていた私は、毎年多くの卒業生が病院へ就職していることや、2000年から4年制大学となり管理栄養士課程にもなった天使大学で栄養について学びたいと思うようになりました。

そして念願がかなう大学に入学してからは、料理があまり得意でないため調理実習などの授業や、知らない土地で家族と離れての一人暮らしなどいろいろと不安もありましたが、今では自分の学びたかったことを実習や講義、実験を通して勉強し、友達もたくさんできて、とても充実した大学生活を送っています。また、私たちは1期生として天使大学最初の卒業生になれるということを私はとても嬉しく思っています。

今の私の目標は、大学を卒業したら管理栄養士の資格を取得し、病院の臨床栄養士として患者さんの健康状態に合った献立を作成するのももちろんのこと、個人の好みに応じた献立を作成することによって、健康面だけでなく精神面でも患者さんを支えられる仕事ができたらいいなと思っています。そして、患者さんにいろいろと制限された食事でも待ち遠しいと思ってもらえたら、それは本当にうれしいことだと思います。そのために、これからも日々の勉強を怠らず、苦手なことも前向きに努力して、たくさんの知識や技術を吸収し、夢に向かって頑張っていきたいと思っています。

(帯広柏葉高校出身)



鶴ヶ崎 友香 (看護学科1年)

私が大学に入学してからもう1年が経とうとしています。この約1年を振り返って、こんなに早く1年が過ぎるとは思っていませんでした。自分のやりたいことであった、勉強をするということが充実していたように思います。

大学で看護を学んでいく中で、多くのことに気づかされました。特に技術の演習では、日常生活では当たり前だと思っていたり、何気なくやっている行動がどんなに大きなことを学びました。これらのことには興味をさらに持つことができ、学ぶことが楽しく思っています。

大学以外の生活では、「よさこいサークル」に入り、さまざまな活動をしています。このよさこいの活動を通してたくさんの人と出会い、良い経験をしました。人との出会いは自分を成長させてくれる大きな機会でした。

看護は専門職であり、講義の一つひとつがとても重要なので、自分でついていけるか不安なところがありました。実際、専門用語がなかなか覚えられなかったり、勉強をしても「つながり」がつかめずにテストの結果に結びつかなかったりしました。しかし、それも自分の努力が足りないことだと思っているので、これからさらに頑張らなければならないと思っています。勉強とサークル、アルバイトとこれからも大学生活を自分が納得できるように充実させ、さまざまな面から自ら学ぶことをしていきたいです。

(旭川北高校出身)

卒業生からの手紙

小椋美雪さん (食物栄養学科49回生) から M先生へ

拝啓 朝晩の冷え込みが一段と厳しい今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。短大から大学へと変わって、さぞご多忙な日々をお過ごしのことと思います。

友人のTさんが札幌に戻ってきて、先生と会い、相談のってもらったと、聞いております。Tさんとはもっとゆっくり話をしたいのですが、仕事に追われる毎日でなかなかそうもいかないのが残念です。栄養士になりたい、と聞いて私も大変うれしく思います。が、栄養士はまだ、周りから立場が認識されていないのでは？と感じることもたまにあります。そして、栄養士自身もまだまだ向上していかなければならないと痛感しております。栄養士として働いているなら、誰もが一度はそう思うのではないのでしょうか。それはともかく、小学校に勤務して1年と半分が過ぎました。子どものいる職場は楽しいものです。楽しいだけではないのですが、やはり子どもの笑顔には何度も救われました。教員中心の職場で働くのは、最初とてもさみしく思いましたが、私には夢があるし、自分の仕事を全力でやればよいのだな、と思うようになりました。調理員さんはベテランの50代ばかりですので、いつもいろいろ教えていただいています。稀に、意見がぶつかったり、お互い理解できない時もあり、悩んだこともありますが、精一杯がんばれば、気持ちというのは周りにも伝わ

るものだと今は感じています。

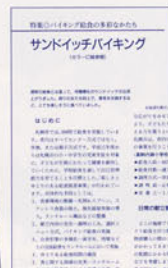
幸い、周りの先生にも恵まれ、たくさん教えていただきました。コンピュータを教えてもらい、できることがどんどん広がりました。国際交流が盛んな学校なので、外国のお客様がよくみえます。英会話が趣味の私は、よく接待をさせてもらってます。栄養士以外の仕事(雑用や英語関係など)もやりますが、それもまた、楽しいものです。

先生は、『学校給食』という雑誌をご存知でしょうか？この度、私の仕事ぶりが掲載されました。とても拙い原稿ではありますが、私が追い続ける「楽しい給食の演出」の第一歩です。これからも毎日の業務と研修を重ね、少しでも理想に近づきたいです。是非、他の先生方にもお伝えいただけたら、と思います。

近いうちに大学に顔をだそうかと思います。その時は、M先生とゆっくりお話したいと思います。では、お体に気をつけて。

敬具

小椋 美雪 (札幌市立真駒内緑小学校 栄養職員)



活躍する卒業生 表彰を受けました 敬称略

勲 七 等 瑞 宝 章
厚 生 大 臣 表 彰
文 部 大 臣 表 彰
北海道学校給食功績者表彰
厚生大臣表彰
恩賜財団母子愛育会長表彰

元北海道大学医学部付属病院管理栄養士
元鉄道病院管理栄養士
札幌市立元町小学校栄養職員
恵庭市学校給食センター栄養職員
伊達赤十字病院
札幌市豊平保健センター母子保健指導員

土門 恭仁子(栄養科6回生)
石川 紀子(栄養科11回生)
山際 睦子(栄養科15回生)
溝口 一子(栄養学科20回生)
菅原 光子(天使助産婦学校3回生)
岩崎 節子(天使助産婦学校12回生)

セクシュアルハラスメント防止等の活動について

保原 喜志夫
(教養教育科教授)

本学では、セクシュアル・ハラスメント(以下、セクハラ)防止等のため、下記のような活動を行っています。

(1)「天使大学(天使女子短期大学)におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規定」(以下、本学規定)

本学では、平成11年6月に準備会が設置されて、均等法21条、これに関連する裁判例、「文部省におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規定」及びその指針、いくつかの大学における関係規定等を参考に、本学規定の草案が作成され、同年9月14日の教授会で承認されました。

本学規定は全6条から成り、その骨子は概略以下の通りです。

- ① 教職員・学生はセクハラが本学における勤務・勉学等の環境を悪化させ、他の者の名誉や尊厳を著しく傷つける行為であることを認識し、その防止に努めるべきこと。
- ② 学長及び監督者は、日常の執務又は教育を通じた指導により、教職員・学生にセクハラへの認識を深めさせ、セクハラに起因する問題が勤務・勉学等の場に生じることが

ないように、彼等の言動に十分に注意を払い、セクハラ問題が生じた場合には迅速かつ適切に対処すべきこと。

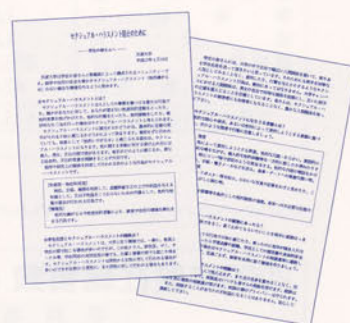
- ③ 教職員5名の委員によるセクハラ対策委員会を設置し、必要な啓発活動・研修・講習会を実施し、また苦情相談に対応すべきこと。苦情相談には、女性を含む複数の委員が立ち合う。

(2)説明会とパンフレットの配布

平成12年4月の新学年を迎え、学生向けには「セクシュアル・ハラスメント防止のために」を作成して、学年、学科別に計4回の説明会を行い、また教員と事務職員には「セクシュアル・ハラスメントを防止するための措置について」を作成し、計2回の説明会を実施しました。上記配布パンフレットには、相談員の氏名と連絡先が記されています。

現在までのところ、本学ではセクハラ被害等の相談、申立はありません。

(セクシュアルハラスメント委員会委員長)



進学相談会・オープンキャンパス

小川 貴代
(栄養学科講師)

今年度の広報活動は、東北会場への参加が2年目となった進学相談会で始まり、5～6月には北海道で131名、東北で46名、8～9月にはそれぞれ193名、11名の参加を得ました。

6月13日の大学説明会では、43校から51名の高校教員が参加し、天使大学への関心の高さが伺える一方、入試に対するあり方が問われる身の引き締まる会となりました。

オープンキャンパスは、8月1日・2日に学科別に開催しました。参加者数は栄養学科86名、看護学科148名で、学科・進路・入試に関する説明会のあと、施設見学・講義紹介・交流会に自由参加してもらう形としました。講義紹介は複数のコースを用意し、少人数の実習型であったことが高校生にも内容を身近に感じてもらえたようです。また、10月21日の天使祭では、150名近い相談があり、男子生徒の姿も目立ち、共学としての関心が高まったことも感じられた1年でした。(広報委員会)



2001年度天使大学及び天使女子短期大学(専攻科)の入学試験について

荒川 義人
(栄養学科教授)

昨年度の大学として初の入学試験は、認可直後のため、短大時代とほぼ同じ内容で実施されました。しかし、本年度の入試には、大きな変更点が二つあります。第一に、従来からの推薦、社会人、一般入試に加え、新たにセンター試験利用入試を導入したこと、第二に、一般入試の科目を、従来の選択2科目(200点満点)から、必修1科目(英語)と選択2科目(数学と国語から1科目、生物と化学から1科目)の計3科目(300点満点)としたこと、です。センター試験利用入試の科目もこの3科目です。変更理由として、社会からの入試制度多様化への期待に応えることはもとより、「本学の教育理念に相応した方々を選考させていただきたい」という入試に対する本学の基本姿勢があります。多くの大学が入試科目を減らす方向に動いている中、敢えて入試科目を増やす点について、皆様の深いご理解を賜りたいと存じます。すでに新しい制度での入試が順調なスタートを切りました。その中で、新年度、両学科に男子学生を迎えることになったことは、本学にとって大きな出来事といえましょう。さらに充実した入試制度の確立を目指し、今なおワーキンググループ等の活動が継続されております。

短期大学(専攻科)の入学試験も、例年どおり、保健婦、助産婦の資格取得を目指す方々によって高人気(高倍率)が維持されております。大学学部の入試と同様、長時間に及ぶ議論、検討が重ねられ、優秀な専攻科生の選考に向けて多大な努力が払われております。

(入試委員会委員長)

平成11年度決算

(平成11年4月1日から平成12年3月31日まで)

天使女子短期大学・比較資金収支計算書(決算額)

(単位:千円)

収入科目	平成10年度	平成11年度	対前年度増減	支出科目	平成10年度	平成11年度	対前年度増減
学生生徒等納付金収入	437,188	457,210	20,022	人件費支出	341,855	394,563	52,708
手数料収入	24,661	23,485	△ 1,176	教育研究費支出	68,373	69,600	1,227
寄附金収入	70,001	28,395	△ 41,606	管理経費支出	32,535	73,677	41,142
補助金収入	103,320	104,609	1,289	借入金等返済支出	10,000	10,000	0
資産運用収入	13,362	9,150	△ 4,212	施設関係支出	2,041	638,532	636,491
資産売却収入	407	0	△ 407	設備関係支出	32,731	77,963	45,232
事業収入	1,941	880	△ 1,061	資産運用支出	550,000	204,000	△ 346,000
雑収入	4,043	12,866	8,823	その他の支出	7,256	8,072	816
前受金収入	262,555	314,945	52,390				
その他の収入	594,662	533,039	△ 61,623	資金支出調整勘定	△ 4,269	△ 12,159	△ 7,890
資金収入調整勘定	△ 256,326	△ 269,225	△ 12,899	次年度繰越支払資金	840,116	591,222	△ 248,894
前年度繰越支払資金	624,824	840,116	215,292				
収入の部 合計	1,880,638	2,055,470	174,832	支出の部 合計	1,880,638	2,055,470	174,832

天使女子短期大学・比較消費収支計算書(決算額)

(単位:千円)

収入科目	平成10年度	平成11年度	対前年度増減	収入科目	平成10年度	平成11年度	対前年度増減
学生生徒等納付金	437,188	457,210	20,022	人件費	345,820	405,253	59,433
手数料	24,661	23,485	△ 1,176	(内退職給与引当金)	(3,976)	(10,769)	(6,793)
寄附金	71,671	31,691	△ 39,980	教育研究費	96,833	99,976	3,143
補助金	103,320	104,609	1,289	(内減価償却額)	(28,460)	(30,376)	(1,916)
資産運用収入	13,362	9,150	△ 4,212	管理経費	34,538	75,667	41,129
資産売却差額	0	0	0	(内減価償却額)	(2,003)	(1,990)	△ (13)
事業収入	1,941	880	△ 1,061	資産処分差額	1,424	0	△ 1,424
雑収入	4,043	12,866	8,823				
帰属収入 合計	656,186	639,891	△ 16,295	消費支出の部 合計	478,615	580,896	102,281
基本金繰入額 合計	△ 42,466	△ 174,960	△ 132,494	消費収支差額	135,105	△ 115,965	△ 251,070
消費収入の部 合計	613,720	464,931	△ 148,789				

2000年度在籍者数 (2001年3月10日現在)

	学科名	人数
大学	看護学科	86
	栄養学科	95
短期大学	専攻科	22
	衛生看護学科2年	57
	衛生看護学科3年	53
	食物栄養学科	114

新しくスタッフになりました。

(新任教職員の紹介)

教養教育科

片桐 千明	教授・生物学
田島 忠篤	教授・民族と文化
吉田 翠	教授・英語
川口 雄一	助教授・情報処理演習
青木 香保里	講師・服装と社会
小泉 ゆう子	講師・オーラルイングリッシュ
堀井 泰明	講師・人間学

看護学科

沢 禮子	教授・リハビリテーション看護学
村田 さやか	講師・臨地実習(精神)
菊地 美香	助手・臨地実習(成人)
小島 悦子	助手・臨地実習(基礎)
鳥谷 めぐみ	助手・臨地実習(老年)
正岡 経子	助手・臨地実習(母子)

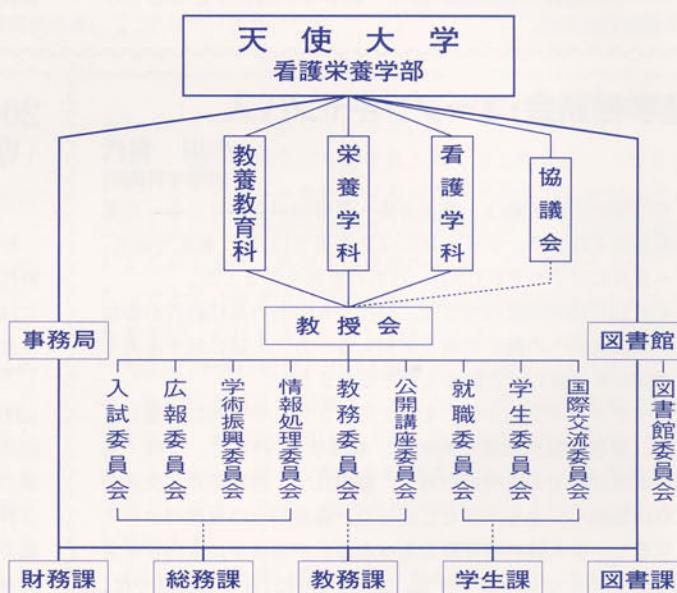
栄養学科

中川 光二	教授・解剖生理学
勝野 由美子	助教授・栄養学総論
佐藤 薫	助手・生化学実験
鈴木 純子	助手・臨床栄養学実習
百々瀬いづみ	助手・栄養指導論実習

事務局

久保 則雄	事務局総務課長 (2000年9月)
-------	-------------------

●学内組織図●



編集後記

天使女子短期大学が天使大学に生まれ変わって1年が経とうとしています。ここに天使大学報1号をお届けします。短大時代16号まで続いた学報に引き続きよろしくお願い致します。学報の顔である題字は、短大食物栄養学科25回生の斉藤玲子さんに書いて頂きました。次年度からは年2回の発行となります。さらなる歩みをすすめる天使大学をいきいきと伝えていきます。(広報委員会 山部・青木)